

とく
徳

ほう
朋

教養とはハニカミを知ること

松本 梶丸



まつもと かじまる

1938-2008

石川県出身。真宗大谷派出版部、研修部勤務を経て、真宗大谷派本誓寺元住職。

「あの人は教養のある人だ」という場合、一般的には深い学問、^{こうはん}広範な知識を持っている人のことをいう。学生時代、^{たんでき}耽溺した^{だざいおさむ}太宰治の書簡の中に「教養のないところに幸福なし。教養とはまず、ハニカミを知る事なり」という言葉に出合^{であ}って、ずっと心にとどまっていた。「教養のないところに幸福なし」とは人間の常識では^{うなづ}領けない言葉である。教養があれば人生は幸福といえるであろうか。だが、^{だざい}太宰は言う。「教養とはまず、ハニカミを知る事なり」と。「ハニカミを知る」とは、人間の存在そのものが見えてきたときの、^は恥ずかしいという生命の実感であり、痛みであろう。

「^{むざんき}無慙愧は名づけて人とせず、名づけて^{ちくしょう}畜生とす」。親鸞^{しんらんしやうにん}聖人が『^{きやうぎやうしんしやう}教行信証』の中に引文している『^{ねはんぎやう}涅槃経』の一文である。人間に生まれたから人間なのではない。人間でありながら人間であることに^は恥ずかしいと感じ、痛みを感ずることがなければ人間の^{きやうがい}境涯とはいえない、と。^{ちくしょう}畜生とは牛や豚のことなのではないのだ。慙愧を失っているものが^{ちくしょう}畜生だと。しかし^は恥ずかしいという実感^{ふんべつ}は人間の分別からは生まれてこない。教えという^{かがみ}鏡に照らし出され、^{ぼうしつ}真実の教えに呼びかけられなければ見えてこない。人間が人間であること^{ぼうしつ}の事実を亡失しているところに、本当の幸福など感じられるはずがないではないか。

「^{さんげ}懺悔というの自分ではできません。自分でする^{さんげ}懺悔は暗いでしょう。^{さんげ}懺悔せざるをえない。そういう教えに出遇わしてもろうた。ありのまま、ありのままのわが身は^は恥ずかしいのだ。その^は恥ずかしいわが身が分ると、それはもう^{かく}隠しようがない。その^{さんげ}懺悔のところによろこびが^{あふ}溢れてくるんです」。^{さばえし}鯖江市に在住された^{たけべかつのしん}念仏者・竹部勝之進さんの言葉である。「人間における一番大きな幸せは、^{おろ}愚かなものよ、^{ごうふか}浅ましい業深きものよ、と言って下さる人を持った人であり、その呼びかけに^{うなづ}頷いていける人生が見つかった人である」(^{おおたにだいがく}元大谷大学学長・^{おおぎがんえい}正親含英先生の言葉)。



(『^{いのち}生命の見える時』)

^{ざんき}慙愧・・・自分の^あ行いや^は在り方を心に深く^は恥じること。

^{さんげ}懺悔・・・上記の^{ざんき}慙愧とほぼ同意。

皆さんは人間に生まれましたが人間として生きていますか。仏教ではどれだけ^{まじめ}真面目に生きていても自分の^あ在り方を^は恥ずる事のない者は、立派な^{ちくしょう}畜生であると言われます。それは勝手に自分の^{じごく}地獄を作って^{かく}苦しみ続ける生き方です。^は隠しようのない^は恥ずべき我が身の^{ぶんげん}分限を教えられ、^{おろ}素直に身軽にそのまま^{おろ}愚かな自分を生きたいです。(哲弘 拝)



この「^{とくほう}徳用」は仏教を^よ抛り所としている方々の言葉に直に^{じか}触れ、仏教を頭で一生懸命に理解するのではなく、この身で感じる事を願いとして副住職が毎月作成しています。多少難しく感じる事もあるかと思いますが、分からなくても構わないので気にせず読んでみて下さい。